

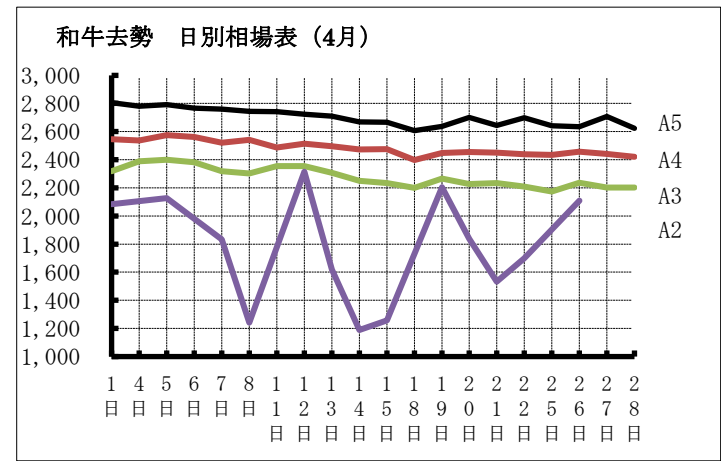
# 月刊しばうら

2022年 5月号

## 牛肉営業部

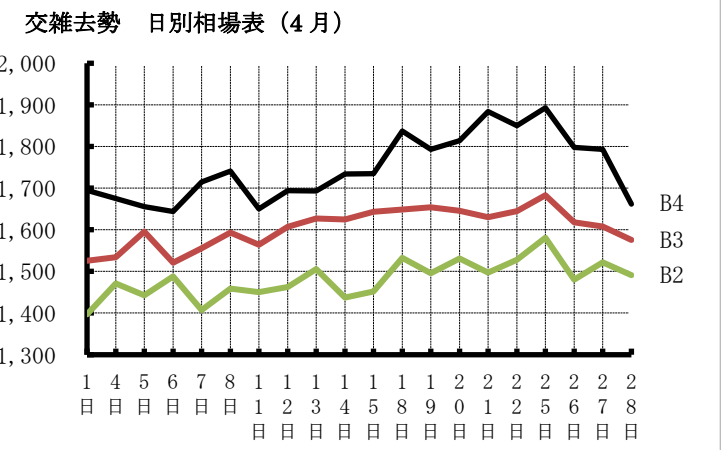
### <4月の相場動向>

新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置は全面的に解除され、会食の制限が緩和されたものの、新規感染者数は高止まりの状態にあり、外食需要の回復にはなかなか至っていない。また食品価格や原油価格の高騰が消費意欲に影を落とし、家庭内需要に盛り上がりが見られなかったこともあり、和牛・交雑ともに前年実績を割る結果となった。



### 和牛去勢(月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
A5	2,712円	-119円 95.8%	+43円 101.6%
A4	2,492円	-153円 94.2%	+75円 103.1%
A3	2,278円	-227円 90.9%	+79円 103.6%
A2	1,749円	-474円 78.7%	-224円 88.6%



### 交雑去勢(月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B4	1,743円	-66円 96.3%	+58円 103.4%
B3	1,615円	-99円 94.2%	+69円 104.5%
B2	1,482円	-109円 93.1%	+93円 106.7%

### 乳牛去勢(月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B3	上場なし	-	-
B2	1,133円	+98円 109.5%	+61円 105.7%

### <4・5月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績によると、3月の輸入量は前年同月比 26.6%減の 3万 3,924t で、うちチルドは 26.0%減の 1万 6,902t、フローズンは前年同月比 27.1%減の 1万 7,022t となった。豪州産の大幅な入船遅延や、北米でも減便による入船遅延があり、輸入量が減る要因となった。

農畜産業振興機構によると4月は17.5%減の4万 5,600t、5月は13.4%減の4万 3,000t で予測している。

輸入牛肉通関量		3月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	5,375	8,488	63.3%
	米国	9,674	11,702	82.7%
	その他	1,853	2,661	69.6%
	合計	16,902	22,851	74.0%
フローズン	豪州	6,151	9,474	64.9%
	米国	4,775	8,236	58.0%
	その他	6,096	5,649	107.9%
	合計	17,022	23,359	72.9%

出典：食肉速報 単位：t

### <5月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による5月の出荷予測頭数は、全体で前年比 104.2%の 8万 3,100頭で、品種別にみると和牛は3.4%増の 3万 7,300頭、交雑種は11.2%増の 1万 9,600頭、乳用種は1.0%増の 2万 4,800頭と予測している。

東京食肉市場の5月のと畜頭数は 6,700頭を予定しています。

### <5月の牛枝肉相場見直し>

新型コロナウイルス感染症対策が全面解除されたものの、新規感染者数は高い水準にあり、行動制限の緩和に伴う感染の再拡大も懸念されるため、外食需要は不安定な状況が続くと予想される。また、景気の先行き不安や、食品等の値上げもあり、牛肉の需要を取り巻く環境は厳しい状況が継続する見込み。

和牛については、冷凍保管事業や輸出需要等により下支えされた価格展開が継続してきたが、北京、上海における新型コロナウイルスの感染拡大による影響が懸念される。交雑種や乳用種については、輸入牛肉の価格が高いこともあり、一定の価格が維持される展開の見込みがある。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,550~2,750	B4	1,650~1,850
A4	2,400~2,500	B3	1,500~1,600
A3	2,200~2,300	B2	1,300~1,400
A2	2,000~2,100		
乳牛去勢			
B3	1,100~1,150		
B2	1,050~1,100		

## 豚肉営業部

3月の全国と畜頭数は、前年同月比 1.1%減の 150万 1,525頭。また、3月の豚肉通関数量は7万 1,938t(前年同月比 4.2%増)と前年同月から増加。内訳はチルドが3万 9,088t(5.0%減)と減少した一方、フローズンは3万 2,851t(17.8%増)と大きく増加した。

2021-2022年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
3	83,976	68,957	24,104	157,880	82,627	72,476
4	80,131	98,642	25,593	159,043	78,537	97,479
5	72,872	71,194	25,852	159,623	72,522	70,614
6	73,971	75,228	25,290	162,439	74,393	72,412
7	71,419	74,607	23,926	160,643	72,678	76,403
8	71,268	78,140	22,888	165,573	72,189	73,210
9	75,182	74,211	21,928	165,491	76,016	74,293
10	76,972	77,876	21,359	161,448	77,317	81,919
11	82,305	78,461	21,604	154,751	81,908	85,158
12	82,143	74,466	22,912	145,676	80,677	83,541
1	79,561	82,518	23,226	154,046	79,136	74,148
2	73,703	71,813	23,161	156,035	73,664	69,824
3	83,139	71,938	24,001	156,094	82,191	71,779
比	99%	104%	100%	99%	100%	99%

出典：農畜産業振興機構 比：最終月の前年同期比 単位：t

3月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	20,260	101.5%	デンマーク	3,843	100.6%
カナダ	16,428	82.9%	スペイン	10,854	180.6%
メキシコ	2,399	176.7%	メキシコ	6,665	123.3%
			アメリカ	2,187	69.7%
			カナダ	1,412	51.2%
合計	39,088	95.0%		32,851	117.8%

単位：t

### <4月の豚取引の推移>

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	61,600	500	466	886
4日	64,400	490	460	654
5日	65,200	494	463	963
6日	64,500	488	453	759
7日	61,500	485	441	749
8日	62,400	470	435	928
平均	63,267/日			823/日

全国と畜頭数は 6万頭台前半で推移した。相場は上物価格が 500円を割り込み、中物は 400円台半ばの展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
11日	65,700	488	444	621
12日	64,300	483	462	845
13日	66,800	504	475	721
14日	66,400	492	479	736
15日	63,000	498	480	937
18日	66,900	502	483	592
19日	67,700	526	516	869
平均	65,829/日			760/日

需要期ではあるが末端消費は伸びず、荷動きは全体的に鈍い状況となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
20日	67,200	530	522	582
21日	65,400	544	537	604
22日	66,300	527	516	1,005
25日	67,300	548	531	639
26日	71,900	561	554	953
27日	67,500	553	538	802
28日	74,000	549	538	928
平均	68,514/日			788/日

連休前の手当によって相場は上昇傾向となった。中物も 500円を上回り上中価格差の開きが少なくなった。

### <5月の豚枝肉相場見直し>

農林水産省による5月の肉豚出荷予測では 132万 9,000頭(前年同月比 101.5%)と予測している。

当市場の5月集荷予定頭数は 1万 5,000頭、1日あたりでは約 789頭を見込んでいる。

農畜産業振興機構によると5月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 7万 4,000t(前年同月比 103.9%)、内訳は冷蔵輸入量が 3万 2,500t(同 94.2%)、冷凍輸入量は 4万 1,500t(同 113.2%)と予測。

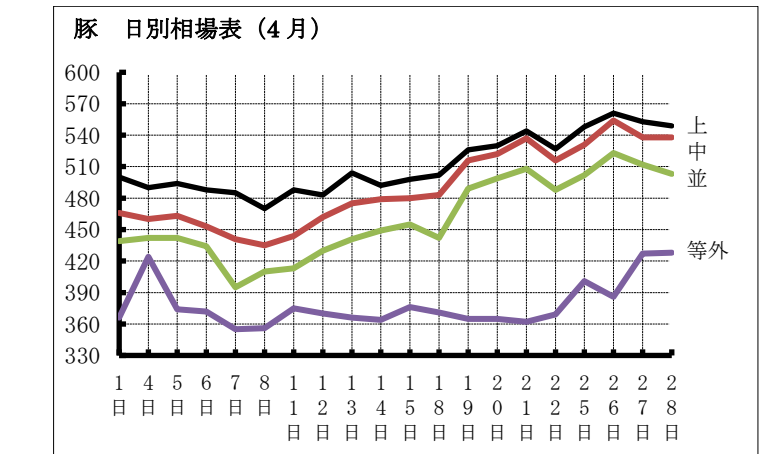
冷蔵品輸入量は、北米の継続的な需要増加や急激な円安相場による現地価格の高騰等から、前年同月をやや下回ると予測する。同じく3ヵ月平均も前年同期を大幅に下回ると予測する。

冷凍品輸入量は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う外食需要の減少、アジア諸国を中心とした旺盛な買い付けに伴う現地価格の高騰等の影響を受けていた前年同月を、大幅に上回ると予測する。同じく3ヵ月平均では、前年同期を大幅に上回ると予測する。

例年、5月は出荷頭数が落ち込む時期であるが、今年に関東近郊における豚熱(CSF)発生の影響により、更に出荷頭数が減少することが懸念される。

上旬は連休明けの補充買いにより、相場は上げ基調となるが、中旬は大型連休による消費者の節約志向から相場は一時落ち着き、下旬にかけて不安定な輸入状況や出荷頭数の減少により、ある程度高値で推移することが予想される。

以上のことから当市場の上物平均価格は 580円前後、中物平均価格 550円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127